

Y様:アバンギャルド「トリオ」を、入口はKLIMAX DSとして、マッキントッシュでドライブ。ハイエンドの機材が並ぶラックは、まさに夢のようなリスニングルーム。



「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

▲スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365
▲プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧
▲プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE
▲パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧

ココが凄い! KLIMAX SOLO

1999年に発売されたLINNトップエンドのモノラルパワーアンプ。350×350×60(mm)のコンパクトなアルミ削り出し筐体に500wのハイパワー。これを可能にしたのが高速かつ大電力を可能にするLINNによるスイッチ・モード電源「サイレントパワーサブライ」。新しい電源部の開発にあたり、パワーアップと低ノイズ化を従来より更に高いレベルで両立化させることが、今回の大きな課題だったと思われま。12年の時を経て、更に進化させた、「DYNAMIK POWER SUPPLY (DPS)」とは…。

パワーアップ!!!: LINNは新DPSによって、パワーアンプをドライブする「電源」のパワーを上げることに着手。従来よりKLIMAX SOLOはリファレンスアンプとして不足なしとも言える数値(500W)を誇っていましたが、新DPSでは、電源そのもののパワーを50%アップさせ底なしともいえる電源供給能力を獲得、結果的にパワーアンプとしてのスピーカーのドライブ力は数値上でも30%アップ。「電源部が変わるくらいで大した変化は出ないだろう」という考えは、一聴すれば誰しもが「間違いだった」と思うほど。

スピードアップ!!!: 目まぐるしく変化する音楽信号に添って電流を瞬時に供給できるよう、高速化に着手。最適化された電源セクションによって、力があるだけでなく反応の速さも、ユニットの制御力も向上。これにより、スピーカーの大小、ボリュームの大小に依るところなくどんな状況でも、難なく正確な駆動を可能に!

クリーン!!!: あらゆる点から設計を見直すことで、パワーを向上させながら静粛性(S/N)を6dBも改善。スイッチ・モード電源は小型でも大電流が取り出せる反面、低ノイズのユニットに仕上げるには 大変な技術力と経験が必須。パワーアップした電源の更なるノイズの低減設計は、とても高いハードルであったと想像できます。電源の供給能力の向上と共にアンプ回路へ、より一層クリーンな給電が可能な製品となった。

ノイズレス!!!: 家庭内の電源には様々な外来ノイズが混入します。家電製品、PCなどのノイズはコンセントからオーディオシステムに侵入し、サウンドクオリティに大きく影響を与えます。しかしながら従来のノイズ除去用のトランスなどでは、製品本来のパフォーマンスを落としてしまう…。そこで本体電源部に巧みなフィルタリングを施すことで、外からのノイズをシャットアウトするという超ノイズレスな製品へと進化!!!!



SOUND CREATE

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-10-6 第一銀座ビル 7F
Tel.0120-62-8166 http://www.soundcreate.co.jp/

営業時間：12：00～19：00 定休日：毎週火曜日/第2、第3月曜日（祝日の場合第1月曜日に振替）

【取り扱いブランド】

LINN / PIEGA / B&W / ELAC / Davone / JBL / Raidoh Acoustics / Sonus faber / Mark&Daniel / Anthony Gallo / AudioMachina / OCTAVE / NuForce / TRIGON / N-mode / QUADRASPIRE・・・etc (ヴァンテージ各種)

様な音でした：。クライバーのライブ録音のベートリヴェーンの7番 拍手からすぐ生々しいんです。

A クライマックスSOLOのDPS新旧比較のデモをしたMさんはいかがでした？

B Mさんは、ピエガ「マスターワン」をSOLOのバイアンプで鳴らしておられ、これ以上良くしようがない程いい音をしていたんですけど、「まだあったんだ」って啞然としました。今回は新電源搭載のものが1ペアしかなかったのですが、ピエガの特大同軸リボンに使ったのですが、静けさ、透明感、空間感、声の質感、実在感など鳥肌モノ。高域が本当にしっかりとドライブされている感じ。これで低域もDPSにしただけ、すごいことになりませんかと話していました。

E 今回のクライマックスDPSはパワーアンプとしてのドライブバビリー

ティアーが30%アップ、電源部そのもののパワーは50%アップというからね。

D 店頭でもアキュレプト242SEとJBL4365で、アンプの新旧比較をしたけれど、全然違うタイプのスピーカーなのに、どちらもそれぞれのスピーカーの良さを出していましたね。サン・サレンスのオルカルの響きがホールの中で溶けていく様は今まで体験したことが無い感覚だったなあ。それに、JBLとリンのアンプすごく合っていたと思わない？

C こんなにマッチングよかった？と思います！ステレオアンプのチャクラツインでも十分鳴りそうだけど…。

B 電源部が変わっただけなのに、駆動力のアップの仕方は、アンプ自体が変わったようにさえ感じますよね。低域が出て「高域が伸びる」とかのレベルでなくなっています。

E アンプにおける今回のアップグレードの大きなポイントは、「ウィファアーの大小」ボリュームの大小にかかわらず駆動できることなんだそうです。一般的にパワーアンプは「出して止める」ところの能力が音楽の表現力に深く関わってくるんですけど、今回のアップグレードのきめ細やかさたるや本当に凄いです。

A 今回のクライマックスシリーズのアップグレードですね。「マ」は「音楽の表現力」ですね。「アップグレード」は時に「以前のほうがよかった」ということがあるけれど、これは「好み」を超えた素晴らしいがありますね。大きな躍進で、未知なる体験があるクライマックスシリーズ、これだけ違うとくさんの音楽好きの方に聴いて頂きたい驚かせたい!と思いますね。チャクラツインも聴くのが楽しみです!

▲サン・サレンス交響曲「オルガン付」より第2楽章 第2部 ミュンシュ指揮 / ボストン交響楽団
▲アルベニス、イベリア組曲より「ラヴァピアス」アルトゥール・ビサロ(P)192kHz/24bit
▲ローリング・ストーンズ「GIMME SHELTER」(アルバム「LET IT BLOOD」) 176.4kHz/24bit
▲ローズマリー・クルーニー「JUST IN TIME」(アルバム「AT LONG LAST」)

ココが凄い! KLIMAX DS

アナログ出力段:
・新たなルンダール社製のトランスを選択し搭載。
・トランスのコア素材、コアボリューム、巻線構造の変更によって回路構成が新たに最適化され、周波数帯域の最低域方向への1オクターブ伸長(下限周波数が前作の半分以下)を実現し、よりワイドに情報を引出すことに成功!

トランスの歪打ち消し回路:
・上記において、トランスに大振幅の入力信号が印加された際にとりわけ顕著な低域の歪発生に対して、予め歪を打ち消すよう働く回路技術を搭載。低域でのハーモニック歪を30dBも改善。

主要セクションへオリジナル設計の安定化電源により給電:
・マスタークロック部、D/Aコンバータ部等、音質に対して極めて重要なセクションが相互に干渉せず、理想的に動作するように基板上にディスクリート構成の安定化回路を搭載。
・アナログ回路の総合S/N比を6dB改善することに貢献。

マスタークロック回路の一新:
・従来のサンプリング周波数対応に4つの発振子を使い分ける構成から、一つの発振子で全てをまかなえるより高性能なクロック回路、プログラムを開発。
・必要以上に複雑な構成になることを避け、ジッターレベルを半減することに成功。

ミュート回路の搭載:
・スイッチのon/off、動作状態の変更時に製品をミュート、ミュート解除する回路を新たに搭載。
・音質に影響を与えない実働回路を搭載しさらに洗練された製品としての完成度を向上。

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

▲スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365
▲プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧
▲プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE
▲パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧



アップグレード徹底比較

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

▲スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365
▲プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧
▲プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE
▲パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧

この度リリースされたLINNの新製品は、上品なアルミ削り出しのボディが美しい、フラッグシップモデル KLIMAXのアップグレード。ネットワークプレーヤーの最高峰KLIMAX DS、ステレオアンプCHAKRA TWINはもちろん、モノラルアンプ KLIMAX SOLOに至っては99年の発売当時からお勧めしてきた製品で、サウンドクリエイトの歩みとも切つては切れない長い付き合い。DSは電源とディスプレイボード、シャーシのみを残し基板が丸ごと変わり、アンプ系は待ちに待った電源部のDPSアップグレードとなりました。アップグレードは時に「好み」による場合もあります。今までも素晴らしいこのシリーズ、「本当にそんなに変わるのか?変わる余地があるのか?」今回、徹底比較をしてみました。

LINN KLIMAX UPGRADE

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

「スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365 プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧 プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧」

▲スピーカー LINN AKURATE242SE/1、JBL 4365
▲プレーヤー LINN KLIMAX DS 新旧
▲プリアンプ LINN KLIMAX CONTROL SE
▲パワーアンプ LINN KLIMAX SOLO 新-旧

M様:PIEGA フラッグシップモデル「マスターワン」をKLIMAX SOLOバイアンプでドライブ。ラックに納められたLINNの精悍な機器が、これ以上ない音楽世界を繰り広げる。